

今回の一般質問ではこれまで繰り返されてきた「財源がなくてできません」という答弁の中身に切り込みました。

財源といっても、地方債を発行できる事業であれば将来の延べ払いという形で財源を作ることができます。他方これを頻発させるとどんどん借金が溜まってしまい、将来の市政運営ができなくなる恐れがあります。要は「どこまで地方債を発行できるか」「それを判断する財政指標は何か」ということなのですが、それが議会で議論になったことはありません。

「市の財政が健全化すること」は「市民の幸福度が下がっていく」ことではないのか、との問いに対して、市はそれを否定することができませんでした。

ここが今後の市政における「財源の有無」のキーポイントとなることがはっきりしました。

新しい蓮田の未来を創ります!

市民クラブ未来 蓮田市議会報告

2025.1月号
Vol.7

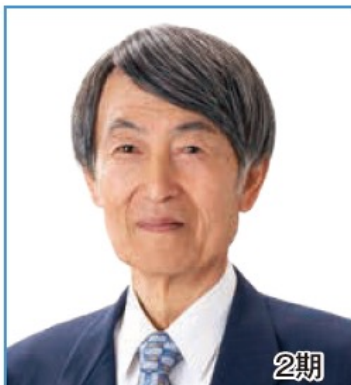


会派代表 3期

菊池 よしひと

蓮田市大字蓮田1032-5
TEL・FAX:048-768-8381

建設経済委員会委員長



2期

斎藤 斉

蓮田市東1-4-21
TEL・FAX:048-768-4308

民生文教委員会委員
埼葛斎場組合議会議員



1期

武藤 やすし

蓮田市大字黒浜3110-35
TEL・FAX:048-764-2662

民生文教委員会委員
議会運営委員
蓮田白岡衛生組合議会議員



副議長 2期

はたくにょ

蓮田市馬込1-350-8
TEL・FAX:048-764-0998

総務委員会委員
(副議長は慣例により会派に属さないこと
となっていますが、本会派設立の経緯から
共に報告させていただきます。)

新型コロナウイルスワクチン接種について

国民の関心が全般的に薄れてくる一方で、ワクチン接種の有効性・安全性についての疑念が全国的に起きている状況があるため、行政として市民に慎重な対応を促す注意喚起が必要ではないのか、という観点から以下を質問しました。



質問 蓮田市の10月接種開始分の接種率、過去との比較は。

答弁 10月1カ月の接種実績は845名、接種率4.3%です。それまでの実績は5回目81%、6回目61%、7回目58%でした。

質問 レプリコンワクチンを認可している国は日本だけであり、その安全性に疑問を呈する意見や情報が多く見られる。またワクチン接種と日本人の2022年の超過死亡数増加との因果関係を指摘する声もある。ワクチン接種には慎重を期すよう市民に周知すべきでは。

答弁 さまざまな情報が錯綜していることは認識しており、市民に適正に情報提供を行うとともに、皆さんの迷いや不安に適切に寄り添い市民が慎重に判断できるよう促していきます。

質問 市としてはワクチン接種について否定も推奨もしないということで良いか。

答弁 法に基づき、希望する市民がワクチンを接種できる体制を整えるという立場です。

現時点で蓮田市内にレプリコンワクチンを接種する医療機関はありません。一方市として市民にワクチンへの警鐘を鳴らすという点では目立った動きをしておらず、広報・教宣の面で不足は感じますが、接種推進には抑制的な面は感じられました。コロナワクチン接種は物事の是非がはっきりするまで静観すべきだと改めて感じました。

令和7年度に実施する事業について

これまで種々の要望に対し「財源がないのでできない」との答弁が多々ありましたが、「**本当に財源はどこにもないのか?**」との検証はできていません。私は「**積極財政を数年間行えば、財政指標が許容範囲(県平均値等)な限り、先送りされている学校・公共施設の懸案事項を一気に片付けることが可能**」と考えており、以下の質問をしました。

質問 どの事業を実施するかを判断する具体的な要素は。

答弁 順位決定の規定等はなく、事業の意義を踏まえ市長の総合的な考えのもと判断しています。
(注:やるやらないは市長の考え次第ということです)

質問 予算規模を制約するような財政指標はあるのか。

答弁 事業費総額の制約につながる財政指標は設定していません。

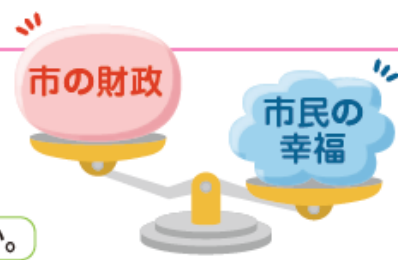
制約がないのになぜ必要な事業が予算化されないか、説明できていません。

質問 市財政の健全性と市民の幸福は両立できないことについてどう考えるか。

答弁 起債しなければ財政指標はよくなるが、その分市民サービスの向上が見込めず市民の幸福度が上がらないと考えられます。財政健全化の指数にかかわらず必要な事業は起債してでも実施する考えです。

質問 これまで市政の結果、財政の健全性は好転する一方で市民の幸福が実現されなかった。学校や公共施設の設備改善など先送りされている事業について、10~15億円規模での起債で財源を確保し一気に実現するという**積極財政を行うこと**について市長の考えは。

答弁 決算ベースで財政指標は変わってくるものであり適債性や交付金の確保などを見極めながら、市民の幸福につながる総振に定めた事業をしっかりとっていくという考えです。(市長)



従来の流れを改め**積極財政で市民の幸福を早期に実現する**、との考えは表明されませんでした。今回「**財源の枠**」は起債等で柔軟に設定できる可能性が見えたことから、第6次総合振興計画の前倒し策定を睨み、予算に対し**市民目線の指摘・提言を行なっていく**予定です。